



ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会  
編集・広報委員会  
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3  
〒807-0025  
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354  
第343号

## 新年明けましておめでとうございます。マヘル神父

2016年は今までで貴方にとって、一番良い年となるようにお祈りいたします。

全世界の状態を考えますと、今の日本が一番幸せではないでしょうか？平和の状態の内に困難なことは何もありません。困ったことが全くないとは言えませんが、他の国に比べると少ないのは事実です。聖書100週間の講座で新約聖書に入りました。初代教会の共同体の人間関係はあまりスムーズに行っていないのが事実でした。

聖パウロの手紙のお蔭で信仰生活が問われ、その問題の解決に信仰は深まりました。パウロはコリントの教会の人々の問題に対処する為に手紙を書き、彼の教会への使命と信仰は深まりました。パウロは全世界は一つの教会でありキリストはその頭である。私達信者は、その体であるという考えで宣教活動していました。

パウロの手紙は、そのまま現代の日本に送られているような手紙です。そして、私達の信仰の根本はキリストの受難と十字架上の死の復活にあり、救いの為にイエズスは受難を通して復活なさいました。私達もイエスの弟子として同じパターンを通らなければならないと思います。パウロの様にイエスの十字架の前に跪いてこの世の苦しみの意味をもう少し悟ることが出来るように祈りましょう。

パウロが受難と復活の意味を悟りました。

彼の宣教活動が苦しく難しかったのですが、彼は続けました。人の考え方によっては失敗でしたが、その失敗の中で成功を見つけました。彼の弱さの中でイエス様に会った力を見つけ、救いを頂きました。

パウロは何かの病気があり、神様に3回治してくださいと頼みました。

「神の答えは、私の恵みはあなたに充分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ。だからキリストの力が私のうちに宿るように、それゆえ私は弱さ、侮辱、共謀、迫害そして行きづまりの状態にあっても、キリストのために満足しています。なぜなら私は弱い時にこそ強いからです。」(2コリント12・8～9)

皆さん私たちも自分と共同体の弱さの中で力を探しましょう。

「兄弟たち喜びなさい。完全な者になりなさい。励まし合なさい。思いを一つになりなさい。」

|                |      |
|----------------|------|
| イエスの誕生と公現      | 2・3面 |
| レプトン会よりお知らせ    | 3面   |
| 小教区委員会         | 4面   |
| 水巻教会巡礼旅行       | 5面   |
| エルピス会の紹介       | 6面   |
| 教会学校のページ・幼稚園から | 7面   |
| お知らせ           | 8面   |
| 今月の聖人          | 8面   |

い。平和を保ちなさい。そうすれば愛と平和 私達も今から新年を迎え、教会の十字架の神があなたたちと共にいてくださいます。」 前でホーリーアワーをいたします。  
(2コリント13・11)

## 馬小屋での聖誕と主の公現(Epiphany)

イエスの聖誕で知られる、羊飼いの牧場近くの「飼い葉桶」(ルカ書)から想像できる粗末な場所に比べて、主の公現で東方の3博士(占星術学者)が訪れた箇所(マタイ書)は、時と場所が違うのでしょうか。ルーベンスの絵画では、イエスを、羊飼いの東方の3博士も、一時に賛美していますが、この2グループのイエス礼拝は、違う時と場所なのか。私にとって数年前から疑問となり、時折調べておりました。

イエスが寝かせられた「飼い葉桶」(ルカ書)に対して、主の公現においてはイエスと家族は「家」に居られます：「星が幼子のいる場所で止まった。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。」(マタイ書) これから考えて、イエス誕生から少なくとも数日以上が経って、一応は「家」に入ることができた；この占星学者訪問の時は、誕生間1週間程度ではないかという説があるようです。

この占星術の学者の訪問は、日本のカトリック教会において「主の公現」と名付けられています。このことについて、私は「イエスの聖誕をユダヤ人のみならず、異邦人に聖誕を示した。これは公的な提示だから公現だ」と想像していました。しかし、3博士が異邦人だから「公」現とする言説、説教を、私はついに見聞したことがありませんでした。一方で、プロテスタントのある宗派では、これを「顕現祭」と言う様です。かねてから、公現の英語語句“Epiphany”が気になっていましたが、今回、次の意味が分かりました。「Epiphany＝出現する、明白にする、露呈する、ひらめく。」これからすると、カトリック教会で用いられる「公現」の「公」が示す意味は極めて薄く、プロテスタントの「顕現」の方が、Epiphanyを正しく伝える訳ではないかと思いました。しかも、プロテスタントのある宗派では、Epiphanyに、博士の礼拝から主の洗礼までも含めるということ。これなら、公現に、3博士が異邦人であることを意図したということは、一切ないわけで、単に私の余計な深読みだったということでしょう。

さて、ルカ書では幼子イエスは8日後に割礼、その後間もなく、生まれた子を捧げるためエルサレムに連れてゆかれ、老いたる聖者シメオンと老女アンナに会い祝福を受ける；一方で、マタイ書では、ヘロデ王の虐殺を恐れてエジプトに逃れる、とあります。

ここでマタイもルカも書かれていることが史実としましょう。ならば、時期のずれには色々な可能性があるとしても、エルサレムに連れてゆく(ルカ)ということは、イエスの命を狙おうとするヘロデ(マタイ)のおひざ元に行くことであり、最もありそうにないことです。

そこで思いつくことは、ヘロデ大王の宮殿（ヘロデオン）は、ベトレヘムの南東6kmにあるということ。（生意気ながら、私も行ったことがあります。高さ60mくらいのミニ富士山のような小山を利用、その頂上を繰り抜いて、宮殿にしたものです。外から見ると、単なる山に見えます。）さて一方、エルサレムは、ベトレヘムの北方向8kmです。すなわち、エルサレムは、ヘロデ宮と逆方向にあり、エルサレムに行くことは、一応、安全な方向だ、と考える。（ただ、これは私説に過ぎません。）それにしても、8kmにしても、6kmにしても、その程度なら、絶大な王の権限で搜索は容易だったのではと思われますが、それは推論しても仕方がないことでしょうか。

なお、このヘロデはヘロデ大王とも言われます。聖書にヘロデの名はたびたび登場しますが混乱しがちです。ヘロデ大王は、マタイ書にもある通り、イエスと家族の逃亡後、やがて死去します（紀元前4年）。一方、ヨハネを処刑し、イエスのご受難の時に、総督ピラトと共に実在したユダヤ王もヘロデですが、大王とは別人で、大王の息子ヘロデ・アンテパスです。（広報、三谷）



## レプトン会からのお知らせ

### ペルーからの現状報告があります

2016年1月10日（日）ミサの後

イエスのカリタス修道女会ペルー共同体 マリア・タキ保育園で働いておられるシスターア  
クリナ恵さんが日本へ休暇帰国、その機会に水巻教会を訪問されます。

**1年半ぶりの現地報告集会です、皆さまの参加をお待ちしています。**

### 一日黙想会のお誘い

指導司祭：山元真神父（小郡・鳥栖教会主任）

日 時：2016年2月6日（土）10:00～15:00

場 所：カトリック水巻教会

費 用：500円（弁当代）

#### プログラム

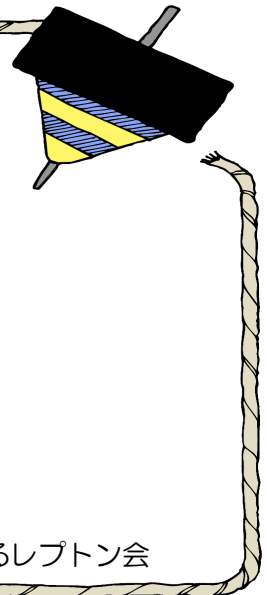
10:00～12:00 講話1

12:00～13:00 昼食

13:00～14:30 講話2

14:30～15:00 ミサ

世話係：ペルーの貧しい子どもを支えるレプトン会



## 委員会等報告

2015年12月分

## 12月度小教区委員会

12月6日

## 1. 先月の行事報告

- ・11月3日(火) 召命の集い 参加3名
- ・11月23日(月) 巡礼旅行  
ザビエル教会 参加18名

## 2. これからの活動予定

- ・12月8日(火) 無原罪の聖マリア  
ミサ午前9時30分
- ・12月11日(金) 共同回心式  
午前10時 午後7時30分
- ・12月13日(日) 歳末助け合い募金
- ・12月20日(日) ミサ後、馬小屋の  
最終飾り付け。子どものクリスマスパー  
ティ、ゆるしの秘跡
- ・12月24日(木) 降誕前夜祭  
午後7時30分 ミサ  
ミサ後、クリスマスパーティ
- ・12月25日(金) 降誕祭  
午前10時ミサ
- ・12月31日(木) ホーリーアワー  
午後11時
- ・1月1日(金) 0時のミサ  
元旦ミサ 午前10時 成人のお祝い  
車の祝別 新年茶話会
- ・2月10日(水) 灰の水曜日

## 3. 議題

## ●歳末助け合い募金

場所の許可が出れば20日に街頭募金をする。

場所候補 トライアル マックスバリュー  
[以降、この件について、今年は中止となりました。]

## ●クリスマスパーティ

- ・食事の準備 23日 24日
- ・各地区から1~2名協力してもらう。
- ・恒例のくじ引き、今年はやり方を変えてみる。

## 4. 各委員会・地区から

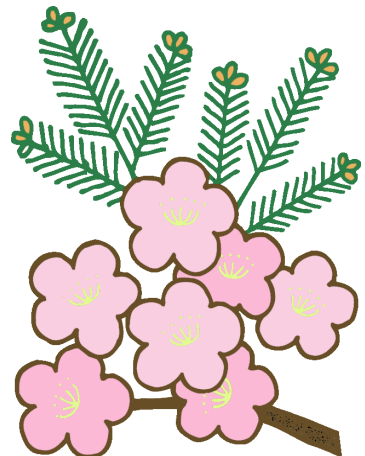
## ●来年から地区集会を実施する。

(2月までに)

議題は、

- ・地区として何をしたか。  
(役割) ←神父様からの質問です。
- ・役員改選
- ・地区名簿の整理など

1月の小教区委員会はお休みとなります。  
次回は2月7日に実施。



## 水巻教会巡礼旅行 11月23日(月)

11月23日、水巻教会から山口ザビエル教会へ巡礼旅行に行きました。18名の参加。  
1日楽しく過ごせました。リンゴ狩りにも行きました。

ザビエル聖堂前で



ザビエル聖堂脇 平和の鐘



徳佐 リンゴ園にて



みんなでリンゴをほうばって





## ボリビアの障害者支援：エルピス会 報告

梅の木地区、俵靖子さんに、ボリビアで支援活動をしているエルピス会の報告をして頂きました。そこで主に活動されている野原昭子(のはらしょうこ)さんが、俵さんの妹さんのため、「野原昭子」と呼び捨てにすることをご了承下さい。

エルピス会とは、南米ボリビア共和国、コチャバンバにおいて、障害者自立支援を目的とした施設「聖マルティンの家」を運営しています。湯川教会出身の野原昭子を日本からサポートする為に作られ、活動をしています。

1980年代後半から、彼女はシスターとして南米ペルーに6年、ボリビアに3年、派遣されていました。現地の貧しい人々の中で活動するうちに、障害者の人達の現状を目の当たりにし、あまりの悲惨さに愕然とした、と言います。

「彼らの中で共に生きよう!」と決心した野原は、1998年再度、単身でボリビアへ渡り、働きながら仕事の合間を縫って、障害者の方々の治療や生活の助けを始めました。そのうち、助けを必要とする人達を神父様やシスター達が連れてきてくれました。同時に、野原の働きを見た人が、家を安く貸してくれたり、物品を差し入れたり、助けてくれる様になりました。日本でも、ボリビアでの野原の活動の広がりに合わせて、支援母体としてのエルピス会をNPO法人として、立ち上げました。

「聖マルティン」とは、隣のペルー国の黒人で、父はスペイン人、母は奴隷でした。彼は修道士としてキリストのもとに貧しい人や障害者のために生涯を捧げ尽くした、黒人では初めての聖人です。施設は、その聖マルティンの保護を願って名付けられました。聖マルティンの家では、障害があっても、それぞれ自分の出来ることでお互い助け合い、かばい合いながら生活しています。また、少しでも自立できるように、手術や治療やリハビリも行います。

これまでに、カトリック教区報や、聖母の騎士社、地方新聞等に掲載されましたが、特に2007年に全国ネットでテレビ放映されてからは、北海道から沖縄に至るまで、多くの方から支援を受けるようになりました。おかげで2009年には、それ迄借地を点々としていた聖マルティンの子ども達に、自分達の住む家が出来ました。また、畑では食用の小動物を飼い、果物や野菜を植えて、食べることも出来るようになりました。(十分とは言えませんが。)

・・・とは言え、16年間、聖マルティンの家の家計は常に火の車です。それでも多くの子ども達が、今では大人達も手術や治療が受けられ、生活ができています。エルピス会も皆さんの助けに支えられ、これからも聖マルティンの家と共に活動しています。

ちなみに、水巻教会の活動グループ「レプトン会」は、野原がイエスのカリタス修道女会の活動の支援、特にペルーの子ども達の為の援助を皆さんにお願いして発足。故ガイアール神父様が、レプトン会と名付けてくれたものです。今は会員も少し淋しくなりましたので、是非、皆さんに入会をお願いします。

イエスのカリタス修道女会は、今でも、野原昭子を物心、両面で助けてくださっています。  
感謝!!

俵 靖子



# 教会学校のページ



## 初聖体クラス

11月29日

出席者

永山楓海さん

山田蓮さん

- 「主の祈り、アヴェ・マリアの祈り、栄唱、回心の祈り、使徒信条」の祈りをしました。
- テキスト「ごせいたい」の中のご聖体をいただく前といただいてからの祈りの勉強をしました。
- 最後に「ありがとう」の歌を歌いました。

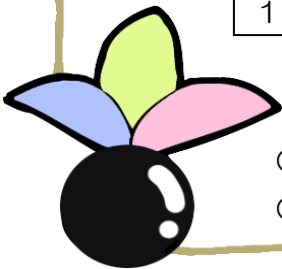
12月6日

出席者

永山楓海さん

山田蓮さん

- 「主の祈り、アヴェ・マリアの祈り、栄唱、回心の祈り、使徒信条」の祈りをしました。
- テキスト「ごせいたいのいただきかた」の勉強をしました。
- 最後に「ありがとう」の歌を歌いました。



## 高学年クラス

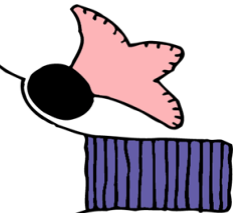
11月29日・12月6日

- クリスマスカードを作成しました。

出席者 野田 明日美さん 平田 彩香さん

中学生お手伝い 宗 真理恵さん 野田 宏人さん

城 龍彦さん 坂本 素珠さん



## 水巻聖母幼稚園からのお知らせ

主のご誕生と新年のお喜びを申し上げます。

昨年は、大変お世話になりました。いつもお祈りに感謝いたします。

2016年もよろしくお願いいたします。

水巻聖母幼稚園

園長 Sr 松川明子

職員一同



# お知らせ

## ★深夜ミサ・元旦ミサ★

12月31日(木)午後11時～

ホーリーアワー(祈りの時間)

1月1日(金)午前0時 深夜ミサ

午前10時 元旦ミサ

## ★黙想会の知らせ(レプトン会)★

今年も黙想会を行います。詳しくは3面をご覧ください。



## ★特別献金★

12月6日 宣教地司祭育成献金

29,600円

ご協力、ありがとうございました。

## 【転出】お元気で！

◇小笠原 知子さん(梅の木地区)

名古屋教区 金沢教会へ



今月の聖人

27日 聖アンジェラ・メリチおとめ 1474年-1540年

アンジェラは、北イタリアの信仰深い家庭に生まれた。幼いころから、祈りと黙想に熱心に励んだ。聖フランシスコの第3会に入り、普通の生活をしながら内面的には修道者のような生き方を続けた。彼女は、ブレシア市の子どもたちの信仰教育の低さを痛切に感じ、同志を集めて彼らを教育する会の計画を立てた。彼女の活動は多くの人びとに影響を与え、貴族や神学者の霊的支えともなった。

1535年に子女の信仰および道德生活の教育を目的とする会を創立した。アンジェラは会の保護者として、ドイツのケルンで有名であった聖ウルスラを選び、その会を「ウルスラ会」とした。そのころまでの女子修道会は観想生活が主だったが、アンジェラが考えた会は、外に出るという革命的なものであり、女子教育のための最初の修道会となった。

彼女の死後、会はミラノ司教 カロロ・ボロメオ(11月4日 参照)によって正式に組織化され、アンジェラ会とウルスラ会に分かれた。聖ウルスラ修道会は1936年来日し、仙台市、東京などで、学校教育や福祉活動などを行ない、社会に貢献している。

